確認テスト

重症心身障害児者の呼吸障害に関して、正しい文章には○、誤っている文章には×で答えてください。

1、重症心身障害児者の呼吸障害への対応では、慢性の呼吸不全の進行や急性の呼吸困難の危険性を念頭に置き、嚥下障害や消化管障害、筋緊張の亢進や低下なども考慮しながら、総合的にケアや管理の計画を立てることが必要である

　　回答【　　　　】

２，十代後半にかけて脊柱の変形や四肢の関節の拘縮が進行すると、呼吸運動が徐々に小さくなり、大きく吸いこむことも、力強い咳で喀痰を排出することも難しくなっていく。

　　回答【　　　　】

３，たとえ自力で姿勢変換ができない重症心身障害児者であっても、身体の変形があまりなければ、各姿勢における呼吸状態には、ほとんど差異は無いと考えて良い。

　　回答【　　　　】

４，慢性の呼吸不全のために酸素飽和度が徐々に下がってきた重症心身障害児者において、酸素投与を検討する際には、血中の二酸化炭素分圧の値の評価が必要であり、それは酸素を投与している最中も同じである。

　　回答【　　　　】

５，胸郭が扁平な重症心身障害児者が反り返りながら呼吸困難に陥っているときは、Baggingによる換気を優先的に行うべきである。

　　回答【　　　　】

解答

１，○

２，○

３，×

４，○

５，×